

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371300860		
法人名	有限会社 サンクチュアリ		
事業所名	グループホーム樹樹 1階		
所在地	愛知県名古屋守山区金屋二丁目250-1		
自己評価作成日	平成24年10月15日	評価結果市町村受理日	平成25年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/237/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigvovyoCd=2371300860-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成24年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『暖かく尊ぶ』と言う、理念を職員一同が日々、心に置き取り組んでいる 利用者様を第一に考え、毎日笑顔の絶えない環境作りを心がけている 外出も多く日々充実した生活を送って頂ける様取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、理念を分かりやすい言葉で掲げており、職員が利用者を「暖かく尊ぶ」という気持ちを持って、利用者 と接することを心がけている。その取り組みとして、利用者を「ファミリーさん」と呼んでいることがあげられる。利用者も職員も、そこで共に過ごしている家族であり、日頃から利用者を大切に思っている姿勢が伺えた。さらに、ホームでは、毎月1回、「茶話会」として、利用者が思っていることを話す時間をつくっており、そこで思いを話してもらうように促している。そこから得た情報は、職員間で検討を重ね、その方が以前、馴染みだった場所に出かける機会を設けたり、以前食べていた食べ物を食事やおやつにとり入れるようにしたり、利用者の思いの実現に努めている。このような取り組みを通じて、利用者がホームでのんびりと穏やかに暮らし続けることができる環境をつくっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝と夕の申し送り時に職員で理念を唱和し、勤務の中で常に意識して業務を行えるよう努力している	職員は、ホーム理念を1日2回唱和することで、毎日の業務を通じて、理念の内容の確認を行っている。管理者は、職員には、理念にある「あたたかい気持ち」で持って接することの実践を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周りの外掃除や散歩を習慣にしており近所の方が畑仕事を手伝いに来て下さるなど交流している 毎年学区の盆踊りにも参加している	ホームでは、小学校や学区等、地域の行事が開催される際には、利用者と出かけて交流に努めている。またホームの行事で食べ物等を作った際には、近隣の方にお裾分けをして交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなか難しいが、運営推進会議で話をするよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの利用者状況や行事の報告を行い、意見等を会議で話し合っている	会議では、ホームからの運営状況を報告したり、出席している方から自身の思いを話してもらう機会としている。しかしながら、出席者が少なく、活発な話し合いには至っていないのが現状である。	現状、決まった家族の参加であり、他の家族も参加しやすいように、開催日時等を検討することで、会議の内容がより充実することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者より、空き状況や生活保護の受け入れについての問い合わせがある	ホームでは、生活保護の方について、区担当者や情報交換の機会をつくっている。また、区の地域包括支援センターとも連携して、家族介護教室がある際には、代表者も協力する関係をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠は行っておらず、チャイムが鳴る様工夫しており見守りにて対応している 現在2名の方がご家族と話し合った上、同意のもと、必要に応じて身体拘束を行ってしまっている(身体拘束実地記録記入)	ホームでは、ユニット入口にセンサーを設置するとともに、職員の見守りによって、施錠をしないケアを行っている。また、ホームでは、やむを得ず身体拘束を行う際には、家族の同意を取り、日常の記録を徹底するように指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	話し合いや、日常業務において虐待に繋がる行為を行わない様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の詳細についてはまだ全職員の周知には至ってない 成年後見人制度を利用して見える方もおられる為、職員の学ぶ機会を持ちたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ、十分理解して頂ける説明が行えるよう努めている 改定、変更時には書面にて同意を頂ける様努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時ご家族様の不安や疑問、苦情等を聞く機会を設けている	ホームでは、家族会の他に、利用者同士で話し合う茶話会を月1回行っており、意見、要望の把握に努めている。また、ホーム玄関に意見箱を設置している他、ホーム便りを毎月発行し、利用者の様子を伝えている。	家族会の内容を再検討する考えを持っているが、今後に向け、家族にホームでのありのままの様子を知ってもらい取り組みを行っていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議には、代表者、管理者が必ず出席し、意見交換を行っている 必要時には個人面談も行っている	法人代表者が職員の一人として業務に従事していることで、日常的に意見や思いを言い易い環境をつくっている。管理者も職員と日頃から接することで思いの把握に努め、代表者に報告し、実現と解決に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者自ら、日中(平日)出勤し、職員の勤務状況等を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ルームにて外部研修のお知らせが提示しており、会議等で参加を進めているが、なかなか参加へは至らずである		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市主催の各種研修等へは参加しているが、その場限りで、なかなか交流とまでは繋がらない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面接時や契約時に本人からの話をできるだけお聞きするようにしている 事例はないが、本契約の前におためし入居して頂き、本人が納得された上でのサービス開始を心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は御家族やご本人がしっかりと納得して頂ける様十分な時間を取り話をさせていただいている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話させていただくなかで他のサービス利用が考えられる場合には、それに応じた対応や情報提供など行うよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活において、常に寄り添い一緒に物事を行い、喜怒哀楽を共にし、信頼関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、面会時以外にも担当職員より毎月のお便りで近況をお知らせし、必要時にはお電話にて相談し合う関係が築けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの友人、知人の方の面会、電話、手紙等本人希望におまかせし対応している	月1回行っている茶話会で得た情報を基に、利用者の馴染みの場所へ出かけたり、以前好きだった食べ物を提供している。また、家族と、食事、墓参りをはじめ、泊まりの温泉旅行に出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活、レクリエーション等を通して出来るだけ利用者同士の関わりがもてる様努めている 孤独しがちな方には職員が間を取り持つよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば連絡を取り、退去後の状況について話を伺ったり相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の会話の中から、希望、意向をお聞きし、会議等で話し合い出来る限り本人の意向に沿ったケアを行っている	ホームでは、毎月行っている茶話会で、直接、利用者から思いを話してもらう機会をつくっている。さらに、職員は、毎月1回、利用者の気付きについて用紙にまとめて提出し、それに基づいて情報の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生育歴等出来るだけ多くの情報を得る様努めている。また毎月行う茶話会を通じて過去の暮らし方、生活環境の経過等把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当の利用者を中心に毎月会議で話し合い現状の把握に努め、記録や報告に残すようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の中でおっしゃった話の内容を反映し、現状に即した計画を立てる様努めているが、ご家族との話し合いの時間を設ける事が出来ていない	ホームでは、担当者より、毎月の会議で利用者の状況の報告がなされており、毎月全員について話し合いを行い、モニタリングを行っている。それを6か月間繰り返しながら、介護計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートを利用し、普段から情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に合わせて、柔軟で自由なケアの提供が出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々なボランティアを受け入れ、ホーム内だけでなく外に出て地域との関係性を築き、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に月2回の往診であるが、普段から密な連携が取れており、迅速で適切な対応が出来るホームとは違うかかりつけ医を希望された場合はその希望に沿うようにしている	ホーム提携医による往診がある他、利用者の急変時等、必要に応じて、ホームから職員が同行して受診支援を行っている。また、訪問看護が毎週あることで、利用者の健康チェックも行われ、夜間の対応についても体制をつくっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況変化や異常に気付いた時は、すぐにホームの看護師や訪問看護ステーションに連絡、相談をするよう職員に周知させており、実行されている		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の方が見える場合、こまめに面会へ行き、関係者や本人から話を聞くなどして情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの事例はないが、現在重度化した方がみえる為、看取りについて会議等で話し合い、家族、医療関係者と共にチームで支援に取り組めるよう努めている	ホームとしては、看取りに向けた支援を行う意思は持っているが、現状、夜間に対応できる体制が十分ではないこともあり、看取りの実績はない。今後に向け、職員研修や家族との話し合いを深めていく段階である。	家族と定期的に話し合いを続けながら同意書を頂くことや、家族会のテーマにとり入れながら、ホームでの対応、現状の対応、他事業所の事例等から、相互の理解を深めていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いざという時の実践力を確かな物にする為、救命講習は定期的に行っている 会議において緊急時の対応について話し合う場を設けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っている 地域との協力体制は、運営推進会議においてお話をさせていただいているが具体的にはまだ模索の段階である	年2回の避難訓練を行っており、夜間想定訓練も実施している。ホームが立地する地域で水害の危険が起きたときは、利用者を2階に上げて対応している。また、備蓄品の確保されているが、見直しの必要性も感じている。	今後に向け、地域住民と話し合い、関係を深めていくためにも、運営推進会議等の場で意見交換を行っていくことを期待したい。また、備蓄品の見直しについても、必要な物品の検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員に対しては継続的に会議や個別で話をする事で意識付けを行っている また、新しく入った職員にも話し合いの場を設けている	職員は、理念にある「尊ぶ」という言葉を唱和することで、日頃から、利用者の尊厳の保持について意識を持つように努めている。また、意識しないで発した適性を欠く言葉があった際には、職員間で注意を促すように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からコミュニケーションを密に取り様々な場面で出来る限り職員主導でなく、自己決定が出来るよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度1日の流れは自然と出来てしまっているが、本人の希望に可能な限り添えられる様努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服や髪型等を出来る限り本人に伺い支援している 外出や行事の際はお化粧が出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話等から食べたい物を取り入れたメニューを買い出しから片付けまで利用者と職員と一緒にやっている	ホームでは、メニュー作りから利用者の意見もとり入れており、嗜好や思い出のある食べ物もとり入れるように取り組んでいる。重度の方が増えているが、刻み、トロミにも対応し、食事の際には、職員も席を共にし、楽しい時間をつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや栄養バランスに配慮し、一人ひとりの摂取量を記録し、状態を把握できる様支援している 量や形態等も個々に合わせた形で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って頂ける様、介助、声掛けを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録したり、会議で話し合う場を持ち自立支援に繋がるよう努めている	ホームでは、利用者の個人記録に記載をしておくことで、申し送り等で情報を共有し、一人ひとりに合わせた排泄を目指している。また、昼と夜とでおむつを使い分けたり、紙パンツから布パンツに移行した方もあり、排泄状態が改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩をはじめ日常生活そのものが運動になるよう声掛け等に努めている また、起床時に牛乳を飲んでいただいたり、場合によっては便秘薬の力を借りる事もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員体制や行事により基本的には曜日を決めさせていただいているが、可能な限り個人的な希望があれば、それに沿うようにはしている	入浴については、月曜と木曜は実施していないが、必要時には柔軟に対応しており、2人で介助を行ったり、拒否する方には、声かけを工夫するなどして入浴につなげている。また、入浴剤の使用もあり、季節の柚子湯や菖蒲湯の楽しみも実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援に努めてはいるが、気持ちの表現が難しい方に関しては会話や行動、表情から気持ちを読み取るなどし、臨機応変に対応させて頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会等で個々の薬、副作用、用法等を職員全員が理解できるような時間を持ち、共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者とのコミュニケーションに努め、その人らしく生活が出来るよう日頃から常に考えている 職員と一緒に外出し、好みに合わせた物を買ったりの支援も行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば出来るだけ浴うようにしているが、職員体制により実現出来ない事もある その場合、他の日設けるなどしている 季節を感じて頂ける様に外出支援している	ホームの食材の買い出し等の日常的な外出や季節に合せた外出をする機会をつくっているが、重度の方が増えていることで、全員の外出が減っているのが現状である。また、ホームでは、個別の外出として、希望される場所への外出に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を禁止はしていない 希望があれば、本人、ご家族と意見や能力を踏まえた上で柔軟に対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状よ残暑見舞いは出来る限り本人の直室を添えて送っている その他、個々で電話や手紙のやり取りが自由に行えるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアへの提示物や飾り等から季節を感じて頂ける様支援している また、居心地が良くなるよう、共同空間の環境には日々配慮している	リビング内には、至る所に絵や作品、季節の飾り付けを行っており、楽しい雰囲気をつくっている。さらに、リビングの一角にピアノが置かれてあり、時々、演奏会が行われている。また、ホームの庭には畑があり、職員支援により利用者が手入れを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファなど設置しており1階デッキや庭で外の空気に触れながら状況や気分に合わせて思い思いの場所で過ごして頂ける様な配慮をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時本人が使い慣れた馴染みの物をホームでも使って頂きたい旨を家族にお話ししている 入居後も本人の居室が居心地の良い空間になる様努めている	居室内には、利用者や家族の好み等によって、自分の家具、テレビ、趣味の写真等、思い思いの物を持ち込み、その人らしい居室づくりを行っている。また、ホームの居室は、全室が南を向いているため、どの居室も陽当たりが良い環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事、わかる事を日々の生活から見極め、さりげない見守りや声掛けで日常の中でその方に応じた生活のリハビリを積極的に取り入れている		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム樹樹

目標達成計画

作成日: 平成 25年 1月 11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	事業所運営推進会議において参加者が少ない	参加の呼びかけの範囲を広め、より多くの方に出席していただきたい	普段から行政との連携を強化し(情報収集や情報提供など)会議の開催時には参加を呼び掛ける	12ヶ月
2	33	個々の現状のあり方がご家族への説明が不十分である	個々の現状や生活風景を知っていただいたうえで、暮らしやすい環境を作りたい	家族会等への参加の呼びかけを強化し、樹樹での生活(食事形態や様子)の現状を知っていただく 担当職員を中心にご家族様と密に関わり、より良い関係を作りたい	12ヶ月
3	35	避難訓練が年に1度となっており、災害時の近隣との連携も確立していない	1年に最低2度は災害を想定した避難訓練を行い、地域との協力体制を築く	職員に対して災害時の対応について具体的に確認したり、避難訓練実行に向け取り組みを行う。その際は地域にも協力を得るようにする	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月